



男体

第31号
平成16年3月1日発行

スカウティングに何ができるか

平成16年1月10～11日、湯津上村「湯けむりふれあいの丘」において、団役員・指導者研修会が開催されました。約45名の団役員・指導者が参加し、中臣副連盟長の講演の後、グループ別にスカウト活動のあり方等について活発な意見交換が行われました。

—現代社会での可能性を考えよう—
副連盟長 中臣昭範先生の講演より



佐野常羽先生の言葉

実践躬行

能動的なことを先にしなさい。スカウティングは空理ではない。スカウティングは実行が第一だ。プログラムの実行が第一だ。

精究教理

一生懸命勉強する。やってみてその奥に何があるか、実際に体で覚える。その実行には、その価値を評価し、その価値づける理論の探求が必要である。

道心堅固

道は、一番大事なところに迫っていくものである。スカウティングはスカウト道でなければならない。

私たちのやっていることは人間教育なのである。今の子どもたちの姿を見ていると、大筋が抜けてしまい、細かいところにこだわりすぎている気がする。BPの願いは、男の子らしい男の子を育てたいということ。人間教育には技とか術では考えられないことがたくさんあるのではないのでしょうか。人間教育を基本に考えていって欲しい。教育は教育技術でなく教育道でなければならない。スカウティングはスカウト道でなければならない。



学校は頂点が全てを把握している三角形の姿。子供は底辺にいる。スカウト活動は逆三角形である。一番上には子ども、その下に奉仕する隊長、副隊長、さらにその下で奉仕する地区の人、さらにその下で奉仕する県連の人、さらにその下で奉仕する理事長がいる。

世の中一般は正三角形になっていて、組織が動脈硬化を起こして血の流れが悪くなり、本当のことが伝わりにくくなる。末端のことばかり気になるようになる。それは怖いことである。

逆三角形の組織は活発になる。班はパトロール（巡回するの意）。スカウトの班はみんなが役割を持つ。班長は班長の役割。次長は次長の役割がある。ボーイスカウトには平社員はない。体の臓器のように、それぞれが役割を持って、役割を果たしている。各組織体（パトロールとかグループとかトループ）が役割を分担し、有機的に組織が活動している。有機的に動いているのがボーイスカウトの活動である。無機は命がない。一人一人が機能性を

持って動く存在で無ければ成らない。言われてやるのではなく、心に響いたことをやらせてもらうということは嬉しいことである。

隊長がすべて指図してやらせていることがあるが、教える人と教わる人の図ができていない学校教育の方法から脱出しなければならない。指導とは指図だけで導いてはダメ、教えないで下さい。指図しないで下さい。自分で体でそれがわかってくよう導いて欲しい。そして、育てて欲しい。導くとは道を少し指し示してやるという字。

「訓導とは、教え導くこと」「教諭とは、教え諭す人」「教授とは、教え授ける人」

授かった物をどう使うかはその人それぞれでよい。私たちのやっている教育は学校教育ではない、社会教育である。教育の場は広い、社会教育、学校教育→教育というのはどういう人になってもらうか目的、目標に向かって進んでいく。

ボーイスカウトは累進的な進歩制度なのです。

目次	
スカウトソング研究集会	2
CONE 登録講習会	2
安全について	3
北部地区カブまつり	4
県連臨時総会	4
団 G-man	5



スカウトソング研究集会（定型外訓練）

去る1月18日（日）佐野市中央公民館で行われました。県連開発委員会主催・南部地区開発委員会主管による定型外訓練『スカウトソング研究集会』には、参加者31名、スタッフ6名、合計37名が参加され、大盛況のうちに行われました。

特に、今回の指導をお願いしました関谷先生をはじめ、赤阪先生、加藤先生の方々に改めて感謝の意を表したいと思います。

口伝えのソングに慣れている私たちにとって、音譜からくる正しいソングを学べたことは、意義深いものでした。まして、スカウトソングは、スカウトの各隊ごとに大変数が多く、正しく歌うことはなかなか困難です。子供たちに正しく伝えなければその喜びも半減しますので、素晴らしい講師の先生と一緒に楽しい一時を過ごしたことは、たいへん有意義でした。

さらに、今回のもう1つのお楽しみは、「ちーやん歌集」をみんなで歌いCDに録音することであり、そのおみやげが、たいへん楽しみになりました。

最後に、このたびの講師の先生方、相馬県コミショナー、白澤県開発委員長に心から感謝申し上げます。
(南部地区開発委員長 売野勝己)



私の友人である白沢嘉宏さんからの依頼で指導をお受けしたものの、今までの指導はいわゆる「合唱」の指導であり、スカウトソングの経験はありませんでしたので、一抹の不安を抱いての当日となりました。しかし、その不安は見事に吹き飛びました。一声出していただいたときからすぐに、物事に真摯に向き合う方々だけから得られる不思議な一体感を感じていました。ひとつひとつに心から反応してくださる方たちばかりで、時の経過とともにそこには純粹に歌と向き合っている自分がいました。

「合唱はともに創る」を基本としている私としては、本当に楽しく充実した3時間であったと思います。このような方々との出会いの場を与えてくださった方々に心から感謝申し上げますとともに、ボーイスカウト栃木県連盟のますますのご発展を心からお祈り致します。

(佐野市民第九合唱団副運営委員長 関谷秀明)



自然体験活動指導者（CONE）登録講習会

平成12年5月、自然をキーワードとして活動している団体の全国ネットワーク組織として、自然体験活動推進協議会（CONE）が設立され、共通の指導者登録制度をつくりました。この制度には、年齢・指導実績・研修経歴により、自然体験活動リーダー、インストラクター、コーディネーター、トレーナー1種、トレーナー2種の自然体験活動指導者の登録があります。

2月29日（日）、県連事務局において10名の参加者を得て、1時間の講習「自然体験活動の理解」を行い、CONEリーダー登録講習会を実施しました。これまでにも研修所終了後に希望者を対象に開催してきましたが、今後とも皆様のニーズにお応えできるよう随時登録講習会を開催していきますので、どうぞよろしく願いいたします。

なお、インストラクター（22歳以上：WB研修所修了後、隊長・副長としての実務経験2年以上）、コーディネーター登録（25歳以上：WB実修所修了後、隊長・副長としての実務経験2年以上）に対しては、奉仕記録・課題研修の提出があり、地区コミショナーが担当されます。

(県連開発委員長 白澤嘉宏)

安全について考える。(私の体験)

伊豆大島は、外周約50kmの、椿と火山で有名な島です。島というところは独特の雰囲気があるところで、都会のあわただしさが嘘のように、時には時間が止まっているのでは、と思えるほどのんびりしています。

私たちは、いつものようにレンタルの自転車を借りてスカウトたちと島の観光地をめぐるサイクリングに出かけました。自動車の往来は非常に少なく、きわめて安全なサイクリングとなるはずでした。しかし、レンタル自転車店の人が「リス村からの帰りの道は下り坂の連続だから、気をつけてください。」の言葉が私の頭から離れませんでした。

スカウトたちは開放的気分になったのか（この気持ちは非常によくわかるのですが）時には列を乱したり、蛇行したりとその都度リーダーの注意を受けるのですが、自動車の心配もほとんどないことから、多少大目にみていたところもあったと思います。リス村の見学を終えていよいよ下り坂の連続です。私はスピードオーバーのスカウトに激しく注意をして何とか無事坂を通り過ぎ、大島1団のキャンプ場のある元町まで戻ってきました。

元町の港には海をながめられる露天風呂があり、サイクリングで疲れた体を癒すのには最高のところなので、風呂に入ってからキャンプ場に帰る予定でしたが、まだ時間に余裕があったので火山博物館を見学してから行くことにしました。

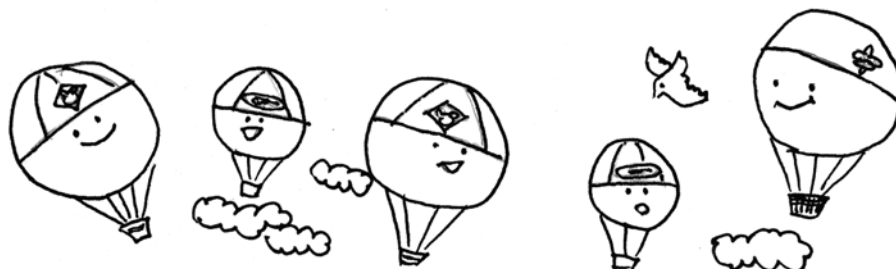
火山博物館の駐輪場に自転車を止めて博物館に向かおうとした時、ひとりのスカウトが「隊長、僕が様子を見てくる」といって、私の注意を振り切ってひとりで博物館の坂を下って行きました。その時、事故が起こったのです。博物館の階段を道路と思って下ってきた彼は、階段に気がつき思いっきりブレーキをかけた瞬間、自転車と彼の体は大きく前に回転し自転車もとも20段ちかい階段を転げ落ちたのです。慌てて駆け寄ると幸い意識がしっかりしていたので、すぐに博物館に駆け込み救急車を呼んでもらい病院に運ばれました。

この事故の原因が何だったのか考えてみますと、ひとつは危険な状況を脱したあとの気の緩みがリーダーにもスカウトにもあったと思います。もうひとつはリーダーの指示に従わなかったスカウトに対してきびしく対処しなかった自分にあるようにあるように思います。もう少しさかのぼると、日頃の訓育のなかで、むかしよりも（私がスカウトだったころよりも）リーダーがよく言えばフレンドリーになってしまった、悪く言えばスカウトに対して威厳がなくなったことに原因があるのではないかと思います。



リーダーは、日頃のスカウトへの接し方や、ささいな規律のみだれを見逃していると子供たちを危険な目にあわせることもあるということを学んだ事故でした。

南部地区プログラム委員長
高村 徹



北部地区カブまつり開催

建国の日の2月11日、矢板市長峰公園において、北部地区カブまつりが開催されました。スカウトたちは事前に「凧」を作って持ち寄ったのですが、この宝物の凧が宇宙人に奪われてしまいます。テーマはズバリ「突然ですが悪い宇宙人です。」

会場内のあちこちに設置されたいろんなゲームの間を、すごろく形式で行きつ戻りつしながら「凧」奪還を目指し、約100名のビーバー・カブスカウトたちが、会場内を元気に駆け回りました。

当日は好天の暖かな陽射しに恵まれ、心地よい微風も凧揚げには物足りませんでしたが、苦勞して風を読み、糸を引いて走り、力作の連凧が舞うたびに楽しそうな歓声が上がっていました。

(大平明生)



県連臨時総会を開催

2月8日(日)午後1時より県連事務局において臨時総会が開催されました。

この総会では、毎年加盟員一所帯より1000円の県連維持会費を集めてきていましたが、これまでは財団法人栃木連盟にプールし、その利息分を事務局などの運営資金にしていくというものでした。しかし、昨今の低金利時代において、その運営が困難になったこと、また、財団設立から30年の間に、財団の目標額を達成したことなどを踏まえ、その見直しをしていくということで話し合われました。

活発な意見の交換により、今後、財団ではなく県連盟の特別会計に「BS運動維持会費」として、形の上では同じ一所帯1000円として、徴収していきたいということになります。6月に財団の理事会が開催されるので、その時点で正式に承認という条件付の議決となりました。

16年度の登録時における「維持会費」は、引き続き加盟員の皆様にご協力戴きますようよろしくお願いたします。



団G-man

貴重な体験の中から 佐野第2団

昭和25年4月18日発団以来54年目を迎えるボーイスカウト佐野第2団は、初代のボーイ隊長であった佐野良澄住職の菩提寺である浄泉寺で月2回の集会が行われています。

思えば我が第2団は、昭和24年の発隊準備から多くの先生方の力強いご指導をいただきながら、ボーイスカウトの課題である「健全なる青少年の育成」をめざして活動をして来たところです。

しかし、なかなか期待に応える成果を上げることが出来ません。

今後、団委員・指導者一丸となって期待に応えるべき努力をしてまいりたいと思っております。

次に年間プログラムの主なものを紹介いたします。

まず、1月1日の三叢山元日登山です。

元日早朝午前5時に浄泉寺に集合し、市の東部にあたります三叢山の頂上まで自転車と徒歩で1時間30分かけて登山し、初日に向かってスカウト全員で一年間の無事を祈願し、下山して新年の式典を行うのが年間行事の始まりです。

2月のスキー訓練では、スキーの経験のないスカウトのために水上町のスキー場で行っています。



5月には30キロナイトハイク、完歩したスカウトは自信がきます。

8月のカブ舎営及びボーイキャンプは、同じ場所を出るだけ避け、今までキャンプしたことのないキャンプ場所を捜して行っています。

キャンプ中カブスカウト達がボーイ隊のキャンプ場を見学に来て、ボーイ隊に入隊することを夢に見ながら帰っていく姿は、なんともいえない気持ちです。

9月はカントリー大作戦の一環で、空き缶拾いやポストの清掃など行っています。

12月の歳末助け合い街頭募金は、寒い中での貴重な体験です。

主な行事を紹介しましたが、活動の中から体験を積んで立派に成長していくことを願っています。

団委員長 川嶋 一雄

自慢なんてできないよ 足利第5団

我が団には自慢するような事は何もないが、しいていえば、昭和26年発団以来50年以上の歴史を刻みながら活動していること、スカウト専用のハウスと広場を持っていることです。

活動場所は旧市内ですが、後に県立自然公園の両崖山や天狗山のハイキングコースがあり、前には渡良瀬川の流れる環境の良い所にあります。

現在は市の人口のドーナツ化現象で、団の前の小学校も児童数が減少して、廃校になってしまう現状で、我が団もスカウト数が激減し、団委員以下32名という状態です。



活動は、スカウトの基本である野外活動を取り入れ、団が一つになって行うプログラムが多いことです。

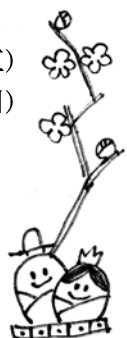
ハイキングをしながらの清掃奉仕、自然観察、野草料理、水あそびをかねた水生生物の調査を行い、環境問題などをテーマにした活動を行っています。

カブ隊副長 寺内 庄一

事務局の動き

平成16年

- 1月10日(土) 団役員・指導者研修会
- 1月11日(日) 理事会
- 1月12日(月) 団担当コミッショナー説明会
- 1月18日(日) スカウトソング研修会
佐野市中央公民館
- 2月7日(土) 各種運営委員長会議
- 2月8日(日) 臨時総会
- 2月8日(日) 登録事務説明会
- 2月21日(土) グローバル委員会
- 2月21日(土) 名誉会議
- 2月22日(日) 関東ブロック会議(湯河原)
- ~23日(月)
- 2月22日(日) 県ベンチャー大会 会議
- 2月23日(月) 組織委員会
- 2月29日(日) 自然体験活動指導者登録講習会
- 3月6日(土) 理事会
- 3月7日(日) 指導者講習会(西部地区)
- 3月7日(日) わんぱくランド(上三川)



今後の予定

- 3月13日(土) 県トレーニングチーム研究集会
- 3月18日(木) 名誉会議
- 3月19日(金) 県ベンチャー大会(CCC)
- ~21日(日)
- 3月21日(日) 県連登録審査
- 3月25日(木) 6NV会議
- 4月18日(日) 指導者講習会(東部地区)



作：をかもと

発行責任者 日本ボーイスカウト栃木県連盟理事長 森山一政 / 編集責任者 組織委員会委員長理事 黒崎博孝 発行部数 2500部

日本ボーイスカウト栃木県連盟 機関紙

320-0043
 栃木県宇都宮市桜四丁目2番2号
 電話 028(621)9800
 Fax 028(621)9800
 Email bstochig@m14.alpha-net.ne.jp

ホームページもぜひ見てください。
[Http://ex.as.lancenet.or.jp/bstotigi/](http://ex.as.lancenet.or.jp/bstotigi/)



「男体」は地球環境にやさしい大豆を原料としたインク(SOY INK)を使用しています。